

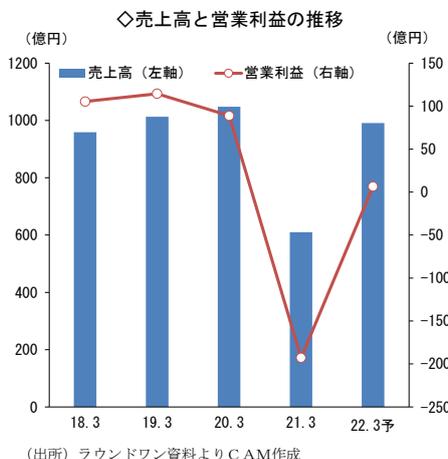
企業ニュース ラウンドワン

(東証1部: 4680) <https://www.round1.co.jp/>

作成者: 高見澤晶子

屋内型複合レジャー施設を展開

ボウリング、アミューズメント（ゲーム）、カラオケ、スポッチャ（時間制スポーツレジャー施設）を中心とした屋内型複合レジャー施設を展開。国内事業が主力だが、若年層の人口減少などを背景とした将来の国内需要減少を懸念し、海外展開に力を入れている。22.3期・第2四半期末の店舗数は、国内98店、米国46店、ロシア1店、中国1店。ボウリングやカラオケの需要が戻りにくい中、アミューズメント、特にクレーンゲームが健闘している。これを踏まえて国内では、クレーンゲーム機を300～500台設置した店舗を増やすとし、順次改装を進めている（従来店は約70～80台）。改装後の店舗はまだ少ないが、売上高が大きく伸長した例もあり、国内売上高成長への寄与が期待される。



上期は会社計画未達も赤字幅は大幅に縮小

22.3期・第2四半期累計（4-9月）の連結業績は、売上高が413億円、前年同期比78%増、営業利益が47億円の赤字、同96億円増（前年同期は143億円の赤字）。国内を中心にコロナ禍の影響が大きく、会社計画には届かなかったが、前年同期に対して大幅な増収、赤字幅改善となった。国内売上高はコロナ禍前の6割程度の水準にとどまったが、米国売上高はコロナ禍前を上回り好調に推移した。また、それぞれアミューズメントの分野が回復をけん引した。

22.3期の通期会社計画は、売上高が991億円、前期比63%増、営業利益が7億円、同199億円増（前期は193億円の赤字）。上期実績を踏まえ、期初計画比で売上高を71億円、営業利益を55億円減額した。第3四半期（10-12月）の国内既存店売上高は、緊急事態宣言が解除されたことでコロナ禍前に迫る水準まで回復が見られた。短期的には新型コロナウイルスの感染再拡大に注意が必要だが、中長期では国内のクレーンゲームの展開強化や米国の値上げ効果による既存店売上高の成長、米国や中国の出店加速による海外売上高の成長が期待できよう。

【株価動向・投資判断】

従来海外成長ストーリーは不変、加えてクレーンゲームを中心とした国内の成長性に期待が持てよう。また、早期に8店舗の出店を目指している中国展開にも注目したい。

<4680 ラウンドワン 業績: 日本基準>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上高	営業利益	経常利益	当期利益	1株利益	1株配当
	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	円	円
20.3	104,779 (3)	8,880 (▲ 22)	8,721 (▲ 22)	4,794 (▲ 33)	50.3	20.00
21.3	60,967 (▲ 42)	▲ 19,286 (-)	▲ 19,811 (-)	▲ 17,973 (-)	▲ 202.2	20.00
22.3 予	99,080 (63)	650 (-)	6,320 (-)	6,440 (-)	69.9	20.00



【主要株価指標】 (売買単位: 100株)	
株価 (2022/1/7)	1,247 円
昨年来高値 (高値日)	1,654 円 (21/6/4)
同 安値 (安値日)	778 円 (21/1/13)
予想 P E R (22.3 予)	17.8 倍
1株株主資本 (PBR算出用)	486.0 円
P B R	2.57 倍
予想配当利回り	1.60 %
(1株当たり配当金年20.00円)	
R O E (21.3)	▲ 34.0 %
発行済み株式数	9,545 万株